



特集

# 鹿児島大学が担う 地域課題への取り組みと 人材育成

稲盛和夫京セラ名誉会長と  
前田芳實鹿児島大学長の対談

～稲盛和夫鹿児島大学名誉博士を迎えて～

前田 お忙しい中、お時間を取っていただきありがとうございます。  
本日は「鹿児島大学が担う地域課題への取り組みと人材育成」をテーマにお話を伺い、先輩である稲盛名誉会長から鹿児島大学に対して、これまでのご経験から貴重なお話、メッセージをいただければと思っております。

はじめに、稲盛名誉会長の学生時代のお話をお聞かせいただければと思います。改めて、ご入学年度は。

稲盛 私が入学したのは、昭和26年です。

前田 私が小学校に入る一年前です。ね。終戦直後のその時代は本当に物のない時代で、裸足で学校に通っている子供達もいたことを記憶しています。鹿児島大学も発足したばかりで、実験器具もほとんどない中で、どういう形で研究をされたのか、想像もつかないのですが。

稲盛 当時、鹿児島大学は、伊敷の軍隊の兵舎跡が校舎でした。私は、甲突川のほとりにある薬師町に家がありましたので、そこから毎日下駄履きで伊敷まで通って

ました。

今にも壊れそうな兵舎跡で授業があったのですが、実験室だけは新しく作ったものがありました。そこは、通り一遍の分析とか実験とかできるくらいに部屋で、実験器具もありました。覚えているのは久保田温郎という旧七高の化学の先生がおられたことです。豊饒とよじょうとした厳しい先生で、横着な我々学生連中がそこで実験をするのですが、ビーカーやピペットを壊すなど、よく粗相をして先生に怒られていました。実験をしている時に先生が来られると「その物質はなんだ」と聞かれる。でも、実験で化学反応によってできる物質が分からなくて、答えられないわけです。ですから、先生が来られると実験中の物質を全部捨てるということをしていました。質問されないように。そういう横着な学生がいっぱいいました。時には、その実験室の近くの学生食堂へ行って、ふかした芋などを買って食べたりしていました。

大学時代は、基礎的な化学分析などを



教わったくらいで、新しいことは別にありませんでした。その中で、何にもなくても一途に一生懸命、目の前にあることに対して努力を続けていくという、そういう精神だけは教わった気がします。

前田 そういふ大学時代を過ごされたのですね。ご卒業後は。

稲盛 そういふ、何もない中で大学を卒業して就職することになったのですが、大学を出たからといって良い会社に採用されるはずもなく、石油化学の会社などをいくつか受けましたが、採ってもらえませんでした。そこで、応用化学の竹下寿雄先生の知り合いの方がおられた京都の松風工業という絶縁用碍子を作っている会社を紹介さ

れて、そこに採ってもらいました。碍子ですから、無機化学の分野です。私は有機化学が好きで、当時、竹下先生が担当されていた有機化学を学んでいたのですが、就職が決まったものから、急遽、無機化学の島田欣二先生の方に移って粘土の研究を始めました。半年しかない残された時間で、無機化学の卒業論文を書きました。先生は大変お酒が好きで、実験が終わると先生の部屋で、焼酎がなければジュースをアルコールで割って飲んでいました。先生は鴨池に住んでおられたので、帰り道、伊敷から肩を組み、七高の校歌などを歌ったりして。忘れもしませんが、ちょうど高見馬場の停留所辺りの線路の上で、市電が来るのに肩を組んで踊り出して、怒られました。そんな大学時代でした。しかし、何もない中で一生懸命目の前のことに努力をしていくということを教わった気がします。

先程、言いましたように、竹下先生の紹介で、碍子を作っている松風工業に入ったのですけれども、何もない研究室でした。碍子では将来性がありませんので、新しいエレクトロニクス用の絶縁材料を開発しようということで、日本で初めて私がフォスフェイトとい

うファイレンセラミック材料の合成に成功して、それをもとにいろいろな製品を作りました。そのことで松風工業の研究室は大変発展しました。当時、松下さん（松下電子工業）がオランダのフィリップス社と技術提携して、初めてテレビを作り始めたんです。テレビの電子銃の絶縁をする部品が必要ですので、フィリップス社から輸入しておられたのですが、いつまでも輸入というわけにはいかないと



輸入というわけにはいかないと

うことで依頼がありまして、私が合成に成功したフラインセラムミック材料を用いて、独力で開発し、納品しました。松下さんに大変喜んでいただいたことが記憶にあります。

**前田** 稲盛名誉会長は、いろいろなご書物の中に「六つの精進」を書いておられまして、私も日々その言葉を心に刻みながら生活しております。中でも最初に「誰にも負けない努力をする」ということが書かれていまして、いま伺った、大学時代、そして職業を決めてからのご活躍には、その言葉通りの歩みが表れていると思います。鹿児島大学の学生に対しても、そのような思いを伝える教育をして参りたいと私たちも思っています。

**稲盛** 鹿児島大学は、日本の南の端にある大学です。そういう意味で、決して大学の中では有名な大学ではないかもしれませんが、ここで学んでいる学生の皆さんが、現在担当しているものに対して必死で努力するということを継続していけば、必ず人が考えられないよ

うな素晴らしいことができる、と私は信じています。私自身は、今ある目の前の目標に向かって必死で努力をしました。何が得られる、得られない、ではなく、目標に向かって命がけで努力を続けるということが一番大事だと思います。その結果、京セラという会社をこの京都に作ることができました。同時に、電気通信事業の自由化に際して、全く通信事業には門外漢であった、そんな私がNTT独占の牙城に食い込んで、消費者の皆さんのために安価な通信料金でサービスを提供したいという一念から、必死で第二電電（現KDDI）を作り上げました。何と云っても、必死に、目標に向かって命がけで努力を続けるということ。すぐに成果は出なくても、一生懸命やっっていけば、必ず成果は出るものと私は今でも信じております。

**前田** 昨年3月、鹿児島大学郡元キャンパスの進取の気風広場に稲盛名誉会長の銅像を作らせていただきましたが、その銅像の台座にも、その精神に通じるお言葉をいただいています。「どんな境遇に遭遇しようとも、どれほど厳しい環境に置かれようとも、くじけるこ



となく、常に明るい希望を持ち、地道な努力を一步一歩続けていくならば、自分が思い描いた夢は必ず実現する」。これは学生や私たちへの素晴らしいメッセージです。

留学生にもこの思いが伝わるように英語でも書いており、鹿児島大学の教育の大きな柱になっていきます。大変ありがたく思っています。

鹿児島大学では、現在の社会情勢の中で地方創生の一端を担っていることから、グローバルな視点を持ちながら、なおかつ地域社会の発展に貢献する人材を育成するということを教育の柱に据えています。そこで、一人でも多くの学生に、海外で学ぶ体験を持たせていきたいと考えています。海外へ出て、広い視野の中で生活を体験し、そこから日本を眺めてみることで、一人ひとりの学生の考え方の広がりが変わってくるのが期待されるからです。今年の6月には、ロンドンのUCLと鹿児島大学が協定を締結して、UCL稲盛留学生制度(UCLに来年度から留学生を派遣するプログラム)がスタートします。このようなご支援をいただいたことに、心から御礼申し上げます。稲盛名誉会長に続くような、志を持った若者が鹿児島大学から出る、そういう夢を描

いて学生を送り出したいと思っています。これからのグローバル人材という点に関して、お考えをお聞かせいただけたらと思います。

**稲盛** グローバル人材という特別なものは存在しないわけで、自分が立てた目標、目の前にある目標、それに対して必死に努力を続けるということとは、国内にいうと、グローバルな展開をしようと一番大事なことだと思っています。私の場合も、国内で半導体のパッケージ開発を一生懸命やっているうちに、半導体の発祥の地であるアメリカ・カリフォルニアにある半導体メーカーが、私の作った製品を使って半導体を製造し始めたということがありました。インテルやモトローラといった、素晴らしい半導体メーカーのトップとも、そのような開発を通じて大変親しくなり、頻りにアメリカ・カリフォルニアのサンノゼやサンフランシスコのベイエリアなどへ行き、技術打ち合わせや交渉などを行っていました。必ず道は開けていきますから、やはり一つの物事に一生懸命頑張るって取り組んでほしいと思います。

**前田** 今、鹿児島大学では世界に視野を向けるということと、地域産





スチヨンをいただければありがたいと思いません。

稲盛 サジエスチヨンと呼べる意見の持ち合わせもございませんが、確かに、地方にある大学であるだけに、グローバルな中でまず地域に対しても貢献していかなきやならないと思います。それは大事なことではありますけれども、やはり学生諸君には、視野を広げて世界を見て、世界に雄飛していく中で、ローカルな応用ができると思いますので、まず鹿児島大学から多くの学生が世界へ飛び出して行ってほしい。世界を見据えて、そういう視野を身につけて、それを糧として地方の活性化にも向かってほしいという気がします。

業への貢献ということも一つの柱に置いています。人口減少や少子化によって地域の産業が衰退しているということもあり、地域課題への取り組みに対して何かサジェ

前田 現在、鹿児島大学では、社会人に対する教育にも力を入れています。例えば、鹿児島は焼酎の産

地ですけれども、焼酎の製造についての知識のほか文化的背景、健康への関わりなど、焼酎に関する教育を背景に「焼酎マイスター」という人材を養成する社会人教育プログラムです。それから、本学には農学部がありますので、森林を保護する人材養成プログラム。稲盛アカデミーでは、鹿児島島の企業人を対象として、稲盛経営哲学に関するプログラムも行っています。そのほか、食品の安全性を確保する人材養成にも着手しました。現在、社会人を対象としたこの4つのプログラムを走らせ、正規の学生の授業以外に地域の社会人への教育を行っているところです。本学としては、総合大学の強みを生かして、この幅を広げていきたいと思っています。その辺りも含めまして、魅力ある教育や産学連携、社会人教育等について、これからの鹿児島大学に期待するお言葉をいただきました。

稲盛 地方大学である鹿児島大学であつても、おそらく一般の市民にとつては敷居の高い学校ではなからうかと思えます。学生だけではなく、地域の人たちが大変親しみを感じるような、足を運びたくなるような大学といえますか、日本

の大学の中でも、突出して、市民の方々に親しまれる大学であつてほしいです。そのためには、大学が市民を受け入れるような、いろいろな企画や催しをやつていかなければいけないと思えます。先生方も地域の方々に親しく接してくれる、そういう大学を目指していただければと思います。できれば市民が心からの愛着を感じるような大学であつてほしいと思えます。

前田 市民の皆様を対象にした教育プログラムを、大学としても拡張していきたいと思えます。今は、どちらかというと産業ベースのプログラムが多いのですが、もっと教育とか法律とか身近な分野についても広げていければと思つているところです。

鹿児島大学には9学部と10研究科があり、そこに素晴らしい研究者、教育者、また、企画力の優れた事務職員がおりますので、それらスタッフを市民の皆様にご利用できるような大学の運用ができたらと思えます。

稲盛 そうですね。そうしていただけたらなによりです。

前田 幸いに大学のキャンパスは鹿

鹿児島市の住宅地のご真ん中にありまして、植物園もあり、田んぼや畑もあります。季節ごとに見事な色彩を創り出す銀杏並木や椰子の並木など、素晴らしい景観もあります。キャンパス全体を学生だけではなく市民の皆様にも楽しんでいただけたらいいな工夫をしたいと思っています。現在でも図書館や博物館その他の施設を市民の皆様開放しておりますので、大変よく活用していただいています。

来年の秋頃には、このたびご寄贈いただきました稲盛記念館が完成する見込みです。京都賞関連の展示室や福利厚生施設も設けられる予定です。そういう所に市民の方が足を運んでくれるような、より親しみやすいキャンパスを創りたいと思っています。稲盛名誉会長には、いろいろご指導いただければと思います。

**稲盛** 私もなにか力になればと思います。

**前田** 大学も法人化され、文部科学省の交付金が減る中で、私どももいたしましたが、自己資金、あるいは外部資金をどう獲得するかというところで模索しているところです。これからも、いろいろな

手段でもって自分たちで教育資金あるいは研究資金を作り出す努力をしなければいけないと思っております。その一つとして、『進取の精神』支援基金というものをご4年前ほど前に立ち上げて、稲盛名誉会長にもその旗振り役を務めていただきましたが、お陰さまで、地域の企業の皆様にも鹿児島大学へのご理解をいただき、毎年5千万円近い資金をいただいております。そのいただいた資金で学生たちへの教育をしっかりと進めていきたいと思っています。現在、300名近い学生を毎年アジアやアメリカ、ヨーロッパなどの海外へ送り出すことができています。それにつきましては、稲盛名誉会長にも大変大きなご支援をいただいておりますことを感謝申し上げます。

それから、毎年、京都賞受賞者の講演会を鹿児島で開催していただき、鹿児島の若者たちが大変大きな刺激を受けています。その中で、2年前から稲盛名誉会長のご支援のもとで、離島の高校生たちにも、京都賞受賞者の講演を聴く機会を与えていただき大変嬉しく、私どもも大きな力をいただいております。

稲盛 私は、鹿児島大学の今後の展開のために必要とあれば協力は惜しみません。母校の鹿児島大学が、他の大学に遜色のない素晴らしい大学に発展し、そこで学ぶ学生たちが鹿児島大学に誇りをもって勉強できるような環境を作りたいと思っております。

**前田** ありがとうございます。一昨



稲盛 和夫 (いなもり かずお) 京セラ名誉会長

- 1955年 3月 鹿児島大学工学部応用化学科卒業
- 1959年 4月 京都セラミック株式会社(現京セラ)を設立
- 1984年 第二電電株式会社(現KDDI)を設立
- 1985年 第一回京都賞授賞式挙行
- 2005年 鹿児島大学に稲盛経営技術アカデミー(現稲盛アカデミー)を設立
- 2015年11月 鹿児島県から県民栄誉表彰授与
- 2015年11月 鹿児島市から市民栄誉賞授与



前田 芳實 (まえだ よしざね) 鹿児島大学長

- 1969年 3月 鹿児島大学大学院農学研究科修士(1977年3月 農学博士取得(九州大学))  
鹿児島大学助手農学部
- 1994年 7月 鹿児島大学教授農学部(～2009年3月)
- 2009年 4月 国立大学法人鹿児島大学理事(～2013年3月)
- 2013年 4月 国立大学法人鹿児島大学長(～現在)

年、鹿児島大学へ来ていただき、ご講演いただいた際の学生たちと稲盛名誉会長とのやりとりがこのご本(『活きる力』)に記載されています。本学における人間教育の指針として大切にさせていただきま